

I 研究の目的と方法

1. 研究の目的

理科学習において多く活用されてきた概念地図法を社会科に組み込むことで、概念的知識の習得を視覚的に行うことが可能であることを証明する。また、社会科における概念地図法の理論を構築し、理論に基づいた社会科授業モデルを開発・提示する。

2. 研究の方法

- (1) 社会認識と概念習得という共に知識の側面をもつ両者にはどのような関係があるのかを考察する。
- (2) 岩田一彦・宇佐美寛・森分孝治に依拠して三者の論じる概念形成過程を考察する。
- (3) 社会科における概念地図法の理論をもとに、概念地図法を組み込んだ社会科授業と理科授業の先行実践を分析する。
- (4) 授業分析から浮上した概念地図法を組み込んだ先行授業実践の問題点を克服するために、分析結果を踏まえて概念地図法を組み込んだ社会科授業を開発・提示する。

II 論文構成

序論

第Ⅰ章 社会認識形成における概念習得の意義

第Ⅱ章 概念地図法と社会科授業

第Ⅲ章 概念地図法を組み込んだ授業分析

第Ⅳ章 概念地図法を組み込んだ社会科授業設計

結論

III 研究の概要

1. 社会認識形成における概念習得の意義

社会認識という用語には、社会を知る働きとその結果としての知識の2側面が含まれている。つまり、社会事象を知るという原因と社会事象間の因果関係を理解する知識習得という結果が社会認識である。また、社会認識形成を図るには、社会諸科学の研究成果としての法則性や概念の抽出が必要となるため、社会認識とは概念的知識を習得することであると考えられる。

2. 概念地図法と社会科授業

J.D.ノヴァック(J.D.Novak)と D.B.ゴウイン(D.B.Gowin)は、有意味に学習するた

めには、個人は新しい知識を既知の関係概念ならびに命題に関連づけるよう選択しなければならぬと述べており、概念地図法とは命題の形をとって、概念間の有意味な関係の表現をねらっているものとしてゐる。また、福岡敏行は、概念地図の構造は「概念」と「概念」を結びつける役割をする「命題」によって構築され、各々の概念はより包含性が大きく、より一般的な上位概念に結びつけられ、全体として階層的な構造をつくと述べている。すなわち、社会科に概念地図法を組み込む際、概念間は因果関係を明示し、概念それ自体の包含性の範疇を理解した上で、分化階層的な概念地図が構造されなければならない。

3. 概念地図法を組み込んだ授業分析

概念地図法を組み込んだ社会科授業と理科授業を分析した結果、リンク記述が因果関係認識型で記述されているため多くの子どもが「～は…である」という記述的知識を習得していることが明らかになった。また、多くの事例で階層性がみられず、階層性がみられない10事例の内半数が放射状に作図されていた。

4. 概念地図法を組み込んだ社会科授業設計

これまでの研究成果をもとに作成した、概念地図法を組み込んだ社会科授業モデルの成果について次のように示す。

(1) 領域

中学校歴史的分野

(2) 単元

「中世の日本」

(3) 内容構成

室町時代における民衆の生活を学んだ上で、正長の土一揆・山城の国一揆・加賀の一向一揆の学習を通して各一揆の説明的知識を習得し、三者の説明的知識から「一揆」の概念的知識を抽出するよう構成する。

(4) 授業構成

概念地図法を組み込んだ社会科における概念探究過程を基に、子どもが概念地図を作成・修正し、作成した概念地図から概念的知識を抽出できるよう授業を構成した。

IV 研究の成果と課題

本研究は、「概念的知識の習得や社会認識形成を行うためには、どのような学習や知識の習得が必要となるのか」という研究課題を追究するために、概念と命題を外在化させる技法である概念地図法の理論を整理し、さらに、社会科における概念地図法の理論を構築した上で理論に基づいた社会科授業モデルを提示した。

今後の課題として、授業モデルを実践し、社会科における概念地図法の理論を修正・昇華することが挙げられる。また、授業分析を引き続き行い確証ある問題点を明示し、授業設計における留意点とする。

主任指導教員 岩田一彦

指導教員 米田 豊